

雑報

「銀河の構造・活動・進化の理論」研究会報告

いわゆる銀河の理論とは、主として太陽近傍の星の運動から銀河系の構造を演繹し、それを一般化することで諸銀河の力学構造を把握する方向で進んできたと言える。発見の60年代においては、渦状銀河に対して密度波理論が提唱されるなど、銀河の構造や進化の理論的研究が一時的に活況を呈したことがある。しかしながら近年、銀河並びに銀河系に関する情報は観測機器の巨大化、観測精度・技術の向上などによって増加の一途をたどり、これに伴って理論的研究も細分化するに至っている。情報量の多様さはともすれば見えすぎることの弊害をもたらし問題の核を見失しなわせていることもまた事実である。このようなときにこそ、あえて流れに逆って、個々の現象を説明するのではなく、全体的視野に立って銀河像を概観することの意味があると思われる。

以上の認識に基づいて、標題の研究会が本年1月25日(火)から27日(木)までの3日間、約60名の出席者をもって東京天文台で開催された。内容はテーマごとに大別して、銀河力学(7講演)、銀河の activity (5講演)、銀河の気体力学及び星の形成(5講演)、銀河の化

学進化(4講演)、銀河形成及び進化(5講演)の多岐に渡っており、銀河全体像に対する様々な観点からのアプローチがなされた。本研究会で述べられたことが統一のイメージ獲得へ向けての一つの踏み台となれば幸いである。個々の講演内容は英文の集録“Theoretical Aspects on Structure, Activity, and Evolution of Galaxies”にまとめられているので、興味のある方は吉井(東京天文台)まで連絡されたい。

今回は研究会の主旨と密接に関連して、発表に際し、次のような要請をしたことを特に記しておきたい。(1) 研究会は review を主体とするが、内容は発表者の主張に重点を置いた original なものとする。(2) 発表者の主張を正当化するため、今後どのような観測的研究がなされればよいかを指摘する。(3) 研究会での討論を促すため、聴衆が発表内容をあらかじめ知っておくよう予稿集を配布する。以上3点である。主催者からの実験的試みとして、発表者にはいくぶん負担のかかる研究会であったにもかかわらず、こころよく引き受けて下さった研究者各位に感謝したい。なお本研究会は科学研究費補助金総合研究(A)「星の誕生と銀河の進化過程」(代表者: 石田憲一氏)の補助を受けて開催された。

(青木信仰・吉井 譲)



写真は杉並区立科学教育センター


宇宙の神秘を拓くスーパーミラー

スーパー (低膨張ガラス)

バイレックス(主鏡・斜鏡)装備

精度入を追求した最高級機!!

LN-125A型
125m/mF 5.76



極望入

M-153A型
153m/mF 5.88



極望入

★営業 ASIBO 品 目★

天体望遠鏡と双眼鏡
ドームの設計と施工
各種部品と撮影用品

ASTRO 光学工業株式会社

東京都豊島区池袋本町2-38-15 ☎03(985)1321

★新総合カタログご希望の方は切手200円を同封下さい。

★全国有名デパート・光学品取扱店で買い求め下さい。